

1 自己評価及び外部評価結果

(※外部評価はユニット別ではなく事業所全体のものです)

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3071100279		
法人名	社会福祉法人 紀三福社会		
事業所名	グループホームひだまり 3階		
所在地	和歌山県海南市下津町方498-25		
自己評価作成日	平成29年8月7日	評価結果市町村受理日	平成29年10月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/30/index.php?action.kouhyou_detail.2016.022.kani=true&JigyosyoCd=3071100279-00&PrefCd=30&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人和歌山県認知症支援協会
所在地	和歌山市四番丁52 ハラダビル2F
訪問調査日	平成29年8月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一人一人の思いに添った個別ケアを行っています。四季折々の季節感を味わえる行事を企画し、ドライブや外食、買い物や1階デイサービスの行事に参加して気分転換を図っています。家庭的な雰囲気の中、笑顔で暮らせる様に支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

建物の1階はデイサービスで2階と3階がグループホームとなっている。別棟に同法人の有料老人ホームが併設されている。日常の利用者の声を聞いて思いを汲み取り、利用者の日常に笑顔がみられるよう支援している。ペランダの野菜や花の世話、食事作りや片付けなど、暮らしの中で利用者ができることを自由に行い、張り合いのある生活ができるよう取り組んでいる。利用者一人ひとりに合わせた買い物など、個別の外支援助も行われている。利用者の様子を写真で知らせる「たんぽぽ通信」を3ヶ月に1度発行し、年2回の家族会は運営推進会議と日を合わせて開催し、家族からも意見や要望を聞いて話し合っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

(※外部評価はユニット別ではなく事業所全体のものです)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の朝礼で基本理念の唱和を行い、理念の共有を図り実践に繋げるようにしている。	理念に基づき、安心できる環境を整え、健康管理にも配慮しながら月の目標を職員で決めている。「笑顔」を理念の中で最も大切に考え、皆が笑顔でいられるケアの実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	外出行事や外食、お買い物の同行など、外に出て地域の方と接する機会を設けている。	地域の中学校から職場体験の生徒が訪れ、また合唱コンクールには利用者が中学校に出向いている。地域の文化祭に利用者の作品を出品している。1階デイサービスでは法人主催の介護教室が行われている。	近くの住宅地から少しはなれているので、地域住民との交流の機会は少ないが、今後、地域の一員としての日常的な交流が多くなる事を期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護者教室や運営推進会議にて、認知症に限らず介護全般における知識の共有化を図っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新しく入居された方もいっしょる為、現状報告や意見交換の他、家族様同士の交流の場としても活用している。	家族からの要望で認知症の学習会を行い、また、成年後見人から話を聞く学習会も行った。年2回は家族会と合わせて開催し、市の職員も出席し、報告や話し合いの中で現状を知らせる機会となっている。	今後は、運営推進会議に地域の人が多く加わり、利用者も交えて開催できることを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営上の問題点や施設の空き状況、待機者の有無など、連絡、相談を行い協力関係を築けるように取り組んでいる。	職員は海南市の地域ケア会議に参加し地域の情報を得ている。また、機会を見つけては市役所に足を運んで状況を伝え、相談をするなど関係を密にしている。市の職員は運営推進会議に毎回出席している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束禁止については職員全員が周知しており、止むを得ずベッド柵等が必要になる場合は、前もって家族様に説明を行い、同意書を記入している。玄関は3階の為に施錠していますが、その時々で自由に対応しています。	日中、見守りの職員体制が整っている時は施錠していない。ベット柵やセンサーは、時間帯を決め必要な時だけ用い、薬物拘束にならないよう不要な薬も減らしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、虐待を見過ごされることがないように努めている。		

【事業所名】グループホームひだまり ユニット名:3階

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用されている方が2名おられるので、職員全員が制度について理解し支援するように努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約字や改定の際は、家族様が納得して頂けるように十分な説明を行い、家族様の要望や疑問点なども合わせて尋ねています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にて、家族様の意見や要望を聞き外部に表せる機会を設け、運営に反映できるように努めている。	利用者の言葉を記録し、思いに応えられるよう職員間で共有している。家族の要望や意見は、訪問時や毎月の電話連絡で聞いている。年2回の家族会の会食後に運営推進会議を行い、家族と話し合う機会を持っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議や法人全体の会議等で、職員の提案や意見を聞く機会を設けている。また反映できるように努めている。	毎日の申し送り時、月一度のスタッフ会議の時、希望や意見を出し合い、また申し送りノートにも書いて自由に意見を出せる機会を作っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考課において個別面談という形で個々の目標や勤務の状況などを話し合い、向上心を持って業務に就いてもらえるよう職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々に担当利用者を持ってもらう事で責任感を養うと共に、法人内の研修にも積極的に参加するよう促している。また、働きながらトレーニングできるよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他部署との相互実習を実施しており、他部署で得た知識を自部署でも発揮してもらうことで、お互いの部署のレベルアップに努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人や家族から十分に聞き取りを行うほか、年代別シートや好き嫌いシートを記入して頂くことで、本人が望む課題・目標を明確にし、無理のない支援計画を立てている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様が困っていること、不安なことを十分に聞き、また、要望にはできる限り対応し、関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	課題の優先順位を明確にすることで、今すべきことを見極め、必要があれば他サービスの利用も視野に入れて対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と同じ目線で物事を考え、一緒に作業することで関係作りを築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族様のニーズを傾聴することで絆を大切にし、共に支えていく関係作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会は随時受け付けており、希望があればデイサービスや有料老人ホームなど馴染みの友人と触れ合える場所を提供している。	建物1階のデイサービスを利用している知人の訪問もある。利用者の買いたいものがあるときは、個別に職員と一緒に出掛けている。行きつけの美容院、盆参り、お墓参り等は家族の協力を得て行けるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	各利用者の趣味や性格などを十分に把握した上で、気の合う利用者同士が交流できる様椅子やテーブル配置を考えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	当法人を退所後も要望があれば積極的に相談に応じ、より良い関係を継続できる様努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の言葉や行動など少しでも変化が見られれば生活シートに拾い上げ、それらからニーズを抽出しケアプランに反映させている。	日々の生活の中で気付いた事や、利用者の言葉を24時間生活シートに記入し、全職員で共有している。また個人ノートにも様子を書いて、一人ひとりの思いの把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	年代別背景シートや好き嫌いシートを家族様に記入して頂くことで、生活歴の把握や課題解決の方法を探っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	24時間シートを使用し、本人の状態を随時記入することで、変化の早期発見に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画書を更新する際、モニタリングでの成果と本人、家族様の意向を踏まえ、よりよい支援が行えるよう話し合いを行っている。	利用者の課題について本人、家族と話し合い、介護計画を作成している。生活シートの情報を参考にスタッフ会議で話し合い、6ヶ月毎に見直して作成している。急な変化のあるときはその都度見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日誌、24時間シート、申し送りノート、利用者個別ノートを駆使し、申し送り漏れの無い様情報の共有化に努め、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の小さな変化を見逃さず、その時の状態に合わせた臨機応変な支援を心掛けている。		

【事業所名】グループホームひだまり ユニット名:3階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	デイサービスと共に中学生の職場体験や様々な慰問の受け入れなど、地域との繋がりを重視している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医は本人、家族の意向で決めて頂き、密に連携を図っている。	協力医療機関のかかりつけ医の往診が隔週にあり、夜間の対応にも協力が得られている。その他のかかりつけ医へは家族が送迎している。往診ノートを活用し、受診時に聞いた内容は職員が把握している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	特変が見られた場合、訪問看護師やデイサービスの看護師に指示を仰ぎ、適切な医療を受けられるよう対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の地域連携室や担当医と随時連絡を取り、本人の状態把握と退院に向けての情報交換に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の在り方について、家族の意向を尊重し、主治医と相談を重ねながら適切な対応が取れる様、職員全体で取り組んでいる。	見取りはしない方針だが、利用者、家族の希望を聞く機会を持つようにしている。急変した場合は家族や利用者の希望を聞いて、夜間対応可能な医師と相談しながら、看護師の訪問を受け、対応できる体制をとっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを元に話し合い、救命救急訓練に参加し、消防署の職員より指導頂く。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時対応のマニュアルを作成し、職員全員が周知している。地域との協力体制を築けるまでには至っていない。	津波を想定し、3階への避難訓練を行った。年1回消防署の指導のもと夜間想定の出火の避難訓練を職員と利用者で行っている。食糧品、充電器、など災害に備えて備蓄している。	災害によっては地域との協力体制も必要となるため、運営推進会議で話し合い、災害時の協力体制を築くことを期待する。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者個々の人格を尊重し、人生の諸先輩であることを常に念頭に置き、言葉遣い等失礼の無い対応を心掛けている。	利用者の尊厳を守る言葉遣いができるよう職員間でお互いに注意しあっている。羞恥心に配慮してトイレ誘導は、周囲に気づかれないようさりげなく行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	質問の際なるべく選択肢を用いることで、利用者本人の意思決定ができる様心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースを最優先し、行事やレクリエーションの参加に関しても、声掛けは行うも最終判断は本人に任せている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪時の髪型やスタッフのネイルアートにて本人の好みに合わせたお洒落を楽しんで頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の好みや食事形態を把握した上で、メニューを考え、身体機能に合わせて調理や洗い場のお手伝いを職員と共に行って頂いている。	スーパーへの食材の買い出し、野菜を刻んだり、食器洗いなど、それぞれの利用者がしたいことを行っている。職員と利用者が並んで食事をし、和やかに会話を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分摂取量を毎回記入し、本人の健康状態の把握に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ブラッシングやガーゼでの拭き取り、舌のブラッシングなど本人の状態に合わせた口腔ケアを実施している。		

【事業所名】グループホームひだまり ユニット名:3階

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	24時間生活シートや排泄チェック表などで個々の排泄パターンを把握しており、それに応じてトイレ誘導やパット交換などを行っている。	トイレの誘導の矢印表示や「ノックしてください」などの安心表示がある。夜間はポータブルトイレを使用する利用者もいるが、生活シートを参考にして、排泄サイクルを把握し、職員が誘導して自立支援につなげている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	服薬での調整の他、便通に良いとされる寒天ゼリーやヨーグルトを食事で提供することで便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	夕飯までの時間であれば利用者の希望する時間帯に入浴して頂いている。	希望により毎日入浴する利用者もいる。入浴を嫌がる利用者には、タイミングをみて誘っている。入浴できないときは足浴を、麻痺の利用者には手浴も行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者のその日の状態に応じて昼寝を促したり、夜間入眠を促すタイミングを考慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬に添付される説明書をファイルに保管しており、変更があった際など職員全員が作用等について周知徹底出来る様に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活に張り合いが持てる様、お買い物や同行や調理の補助、洗濯物の整理など様々な事を個人の技量に応じてお手伝いして頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物、散歩、ドライブ等希望に応じて支援しています。本人の希望を家族に伝え協力して頂いています。	欲しいものがあれば職員と個別に出かけている。利用者が行き先を決めて、数人で海や山をドライブしている。外出の難しい利用者はベランダのベンチに座って、外気に当たり軽食をとったりしている。家族と一緒にカラオケや喫茶店に行く利用者もある。	

【事業所名】グループホームひだまり ユニット名:3階

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	殆んどの方は、お金の管理・保管は職員が行っているが、一部の方は自分で管理しています。外出時やお買い物の際本人の希望に応じて好きなものを自由に購入して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の要望に応じて電話の取次や手紙のやり取りの支援をさせて頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が心地よく暮らして頂ける様、四季を感じさせる飾り付けや座席配置を考慮している。	家具の配置は利用者の動線に障害物がないよう配慮し、浮腫のある利用者のために足台を職員が手作りするなど、利用者が居心地良く過ごせる工夫がみられる。居室入口に暖簾や目印のものを付けて分かりやすくしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル席には気の合った方たちと座って頂いている。また日中のんびりと過ごして頂ける様ソファを多く配置している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで自宅にて使用してきたものをそのままお使い頂くことで、落ち着いた暮らしができる様配慮している。	利用者が家で使用していたタンスやテレビ、仏壇等が置かれている。家族写真や手作りの花、習字など、利用者の好みのものを飾っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人の残存能力を十分に活かせるよう、本人のADLの変化に応じて居室内の物の配置を変えている。		